

## 令和3年度 第1回羽曳野市立図書館協議会会議録（要録）

日 時： 令和3年6月29日(火) 午後1時30分～午後3時00分

場 所： 羽曳野市役所 本館北会議室

出席者：(委員) 上野委員、橋本委員、脇谷委員、菊川委員、松井委員、渡辺委員、田村委員、河津委員、  
菅谷委員

(教育委員会) 村田教育長、淋生涯学習室長

(事務局) 南里課長、奥野館長、石田参事、細井、岩佐

欠席者： 森委員

傍聴者： 0人

### ●委嘱状交付式

### ●開会

教育長挨拶

(教育長 公務のため退席)

事務局より、会議録の要録を WEB 及び中央図書館にて紙ベースで公開すること、そのため会議を録音することを報告

委員の紹介、出席者9名で協議会成立の報告、事務局職員の紹介

事務局より協議会に関する条例等の説明

### ●議事

議題 会長・副会長の選出について

事務局提案により、会長に上野委員、副会長に橋本委員を全会一致で選出

議題 図書館協議会より提出した「意見書」の報告について

会長よりこれまでの経緯を説明

会長：教育長に会ってお話をした。(教育長に代わって) 回答をこの場で口頭でもいただきたい。

室長：職員の必要性は理解しており、市長にも伝えていきます。一方、職員の採用は市全体の状況を加味します。図書館の現状の説明は、採用部局・市長に引き続きやっていきたい。

会長：図書館の職員の非正規率は他の部署と比較しても極端に高い。コロナ禍で大変な状況であることもわかるが、長期的に軸となる正規職員が少ないので今後もお力添えをお願いします。

子どもだけでなく、障害者、高齢者に対してのサポートについて、福祉部門の前に世話になるところは図書館以外にないと思う。近くの市で認知症ケアなどを行っている図書館があるが、正規職員がいるからできているのだと思う。

会長：それぞれの(委員の)立場から意見を聴かせてください。

委員：数年前から「うちどく」を続けている。いただいたコメントによると、自宅で本を読む機会が減っているのだと感じる。羽曳野市でも数年前にやっていたブックスタートは有効なのではと思って

いる。小さいころから本に触れることが大事だと思う。本をプレゼントするのは大変なのでそれに代わるものがあればいいと思う。低学年で本のめくり方が下手な子が多く、本を読み慣れていないのだと思う。家で本を読む機会が取り入れられればありがたいと思う。

**委員：**学校での調べ学習がタブレットの配布により、インターネットを使うことが多くなっている。インターネットの情報は不確かなものもあり、本でそれが正しいか調べることは大事なことだと思う。インターネットが正しいか確かめる知恵は生きていくうえで非常に大切だと思う。図書を使って物事を調べる力はすごく大切であり、そして、そこに人がいることが大事なことだと思う。小学校各校に司書が入っていただいているのはありがたいことで、中学校にも広がってほしいと思う。図書館については、正規職員が3名しかいない。中央は1人で、お休みの時に万が一のことがあったときには他の職員が不安なのではないか。正規職員を、できれば司書職員を、2人3人と入れていたかないとこの先図書館はどうなっていくのだろう。多様な世の中、図書館にはますます今までと違うことを求められる。少ない人数の職員が一手に責任を負うことになるのではないかと心配して、毎年要望させていただいている。せめて非正規率を市役所の他の部署と同じくらいにさせていただけないか。

**委員：**退職して、本を読むことがなくてはならない楽しみになっている。他の趣味のことについても調べたいことはあるので本から離れるわけにはいかない。前回、コロナ禍になって図書館に行けなくなったとお話ししたが、(緊急事態宣言が)解除されても二の足を踏んでいる。活動報告書のはじめに「より利用しやすい図書館をめざし」とあるので、ぜひ、子どももちろんだが高齢者も躊躇なく利用できるようなシステムを確立していただけたらと思う。それに関わってくる人の問題が大きな点になると思うが、気軽に利用できる体制・しくみが前に進んでいけたらいいと思う。

**委員：**子どもにどんな本を読んだり紙芝居をしたりすればいいのか図書館の職員に相談すれば教えてくれるがこちらに遠慮もある。私たちの相談相手になってくれる司書をお願いしたいことが一番。老人施設にもおはなしをしに行くが、子どもたちにする話と老人施設でする話は全く違う。適切な本を探すときに相談できるのは図書館員だ。

**委員：**学校現場では今年度からひとり1台のタブレット配布が始まっている。高学年では頻繁にタブレットで調べ物をしている。便利だが、リテラシーの点ではその情報が正しいのか、批判的に読み取る力が必要だ。

読書環境では毎日「朝読(あさどく)」をやっている。低学年は絵本を読んだりしているが、高学年でも文字を追うことに抵抗のある子どもが見られる。まだまだ学校として課題はあると思う。学校図書館に人がいて環境が充実した中で育っていく子どもたちなので、高学年では新聞を読めるくらいには育ってほしいが、現状はそこまでに至っていない。「うちどく」などキャンペーンをすると保護者ものってきてくれるが、きっかけがないとできないのが現状かと思う。

ブックスタートはいいことだと思っている。子どもが小さいころから本に興味を示すことを保護者が目の当たりにし、現実を見ないと、いくら言葉で説明してもわかってもらえない。ブックスタート事業はなにかの機会に復活していただけたらと思う。

**委員：**図書館の役割は大きく変わってきている。本を貸すだけではない。個人や社会の課題解決など、人が生きることをあらゆるステージで応援するのが図書館だ。そういう意味で司書の役割も変わってきている。ブックスタートでは赤ちゃんにどんな本を勧めるか、調べ学習など学校教育をどうやって応援していくか、社会人なら起業などのビジネス支援、生活で困ったこと、健康情報なども積極的に提供している。図書館はものすごく可能性のある施設・機関だ。大阪府下でサービスが進んでいる図書館では、仕事で困ったときに図書館で相談して解決の糸口になるなど、いろいろなことを図書館を通じて解決している。情報を求めている人、生きがいを求めている人をつなげて社会活動を助けるこ

とが図書館の役割なので、そういうことから正規の職員がいないと困る。

これまで羽曳野の図書館を見てきて思うことは、児童サービスはそれなりに力をいれているが、すべての人へのサービスという点では遅れている。今は子どもより高齢者人口の方が多い。図書館は赤ちゃんからお年寄りまで誰もが使うところだが、高齢者や働いている人に対して後押しができていないのが羽曳野の課題だ。新しいサービスをしようと思えば正規職員がいないとできない。本を知っている人だけはいけないので、能力のある人、有能な司書が必要。これまでの羽曳野のノウハウを引き継いでほしい。一刻も早く正規職員を雇ってすべてのライフステージの人の役に立つ図書館展開を始めてほしい。図書館は単に本を貸出するだけの施設ではない。

**委員：**高齢者の方が多くなると図書館が近くにないと歩いて行けない。コミュニティセンターに図書館があるが、小学校区にひとつはほしい。図書館をどう利用していくかは今も意見があったように重要になってくる。まちづくりが図書館を拠点にされることも課題ではないか。民間委託などあるが、公共施設の役割は何なのかということのを重要視して図書館行政を考えていかなければならないと思う。

**委員：**学校図書館間で本の貸し借りができることがあまり知られていないのではないかな。

新聞が読めるような理解力、というお話があったが、今、新聞を取ってなくて新聞を読む習慣がない家が多い。ネットでニュースを見るのと新聞で読むのとでは違うと思う。「うちどく」にしてもできる家とできない家の差が激しいと思う。

理想の図書館を扱った映画があった。私たちでも何か一つくらいできないか。何かやってみれば、それがきっかけになるのではないかな。

**委員：**ブックスタートの話が出たが、昔4か月検診で子どもたちに絵本を読むということのを何年かやったことがある。4か月の子が反応することに保護者がびっくりするという体験がいくつもある。そういう体験をした親御さんは、図書館に行って本を借りてくれたり、本を買ったり、次の行動につながると思う。図書館から来た司書が声掛けするだけでも違うものが生まれる気がする。お金をかけなくても力を貸してくれる市民はいると思うので、動き始めてそのことによって図書館をサポートしてくれるつながりが持てたらうれしい。

**委員：**ブックスタートは赤ちゃんのためだけでなく、お母さんにとってもいいこと。子育て支援になる。お母さんの表情がやさしくなったり気持ちが楽になるなど、その場に来ることが社会的に有意義な役割を果たせる。そういう可能性が図書館にはある。

**委員：**子ども文庫に来た人に、溜まっていた思いを聞いたこともある。「本は赤ちゃんが聞いていようがいまいが、あなたが楽しんで。」と伝えた。本が読み手である親御さんの心を癒すこともある。

**委員：**子育て支援センターのおはなし会に必ず来る赤ちゃんをみていたら、お母さんが本を好きなようだ。続けて来られてその子がそのまま小学生になると本が好きでいられるのではないかと今の話を聞いていて思った。

**委員：**親子で一緒に来ることが大事なことだと思う。

**委員：**森のゆうびん局が使えなくなったのはなぜか。

**事務局：**市の施策で、マイナンバーカードの受付事務に使うためです。本はそのまま置いてもらっているので、いつか再開できればと考えています。

## 議題 令和2年度図書館の事業活動報告について

事務局より冊子『令和2年度図書館業務活動報告書』により説明

図書館のホームページでも公開していることも説明

・新型コロナウイルス感染症のため大きな影響を受けたが、できることをやっていこうという考えで

やってきた。貸出冊数、市民一人あたりの貸出点数等の減少は、完全休館したこと、その前後には館内に入って本を自由に選んでもらえず、予約の本だけの貸出を行ったことなどの影響。

- ・開館してもおはなし会は回数が減った。おはなし会再開後は、人数・時間を制限するなど、不自由ながらも感染予防を考慮しながら実施した。
- ・イベントはほとんどできなくなったが、3密にならない、人と人との接触を避けてできる企画を考えて実施した。
- ・職員研修は中止になったところが多かったが、リモートで実施されるものに参加し、スキルアップに努めた。

#### 議題 子ども読書活動推進委員会委員の選出について

会長提案により、前期に続き菅谷委員を全会一致で選出

**会長:** 前回の会議で、図書館の運営見直しについてお聞きしていましたが、今どういう風になっていますか。

**事務局:** 前回の会議でご意見をいただきました。もう少し具体化して今日の会議で内容をご説明することになっていましたが、いろいろと検討しているところです。一方的な職員削減やサービス低下にならないように検討しています。

#### ●閉会

生涯学習室長挨拶